

団体概要

所在地 北海道札幌市
代表者名 代表 片岡 有喜子
設立年 2023年
スタッフ数 3人
活動日数 週7日
https://hokkaidofoodbanknetwork.localinfo.jp/

2023 年度活動実績

取扱量 約 35 トン
食料提供者 7 社（団体含む）
食料提供先 加盟 16 団体
（通じて各世帯へ）

活動内容

北海道内におけるフードバンク団体のネットワークとして2023年4月に発足。16団体が加盟し、地域間での食品の均等化を図る。また勉強会などを通じ、フードバンク団体としての信頼性の向上にも取り組んでいる。

地域を越えた食支援 ノウハウ共有や勉強会も

北海道フードバンクネットワーク



地域や団体の課題

地域間の食料の均等化

2023年にネットワークとして発足したばかり。加盟団体同士の連携や交流を深める必要性があるのはもちろん、設立間もない加盟団体もいることから、ネットワーク全体の底上げも課題。

ここ数年はコロナ禍や物価高が重なり、フードバンクの需要が増している。広い北海道で困窮世帯への支援を充実させるには、地域間の食料や情報のやり取りが重要課題となっている。

また、ネットワーク発足前は企業から食料寄贈の申し出があっても一つの団体では対応しきれない場合もあった。北海道という土地柄、地域で農産物の余剰が出ることも少なくない。



▲団体同士で視察会を行い情報共有

団体のここがポイント！

交流・勉強会の開催で 団体の底上げを

団体同士の交流により、ノウハウやそれぞれが抱える課題など情報の共有がなされた。2024年1月には札幌にてシンポジウムを開催（次頁参照）。また、団体運営や衛生管理の勉強会、お互いの団体への視察等を開催し、フードバンク団体としての活動の底上げも果たしている。

加盟団体同士で余剰農産物等のやり取りも生まれ、地域間における食品の均等化にもつながっている。

7 件の寄贈を分配

これまで大口の寄贈があっても一つの団体では対応しきれないことがあったが、ネットワークができたことで2023年は企業や団体から7件の大口寄贈を受けることができた。企業としては一つの窓口でやり取りが済み、合意書の取り交わしなど事務負担が軽減。迅速にマッチングが進むようになった。

担当者に聞いてみた

代表 片岡 有喜子さん



Q.多くの企業から寄贈を受けているが、つながるコツは？

発信に注力することで、思いのある企業からの問い合わせが増えた。特に最近はSNSに力を入れている。これまではfacebookが中心だったが、インターンシップの協力によりYouTubeやInstagram、Tiktokなどにも挑戦している。

自分だけでがんばらず、周りの力を借りるようにしている。

Q.これから取り組みたいことはありますか？

広い北海道にまだ空白地域は存在しているので、立ち上げ支援にも積極的に取り組みたい。拠点が増えるとより多くの食料が届けられるし、自分も助けてもらったので恩返ししたい。

また、ネットワークとしての知名度をあげ地元企業にアプローチし、地元へ愛されながら活動を継続していきたい。

イベントレポート

北海道フードバンクネットワーク

開催概要

公開シンポジウム
企業とフードバンクのパートナーシップで叶える社会課題の解決

主催：北海道フードバンクネットワーク

協力：農林水産省 北海道農政事務所

日時 2024年1月23日
13:30～16:00

場所 北海道札幌市
札幌エルプラザ

対象 フードバンク活動団体
企業・行政
フードバンクに関心のある市民

参加者 75 名

参考 P.28（北海道フードバンクネットワークの紹介）

広い北海道をどうつなぐか 企業の実例も共有



シンポジウム 内容

- 1) 北海道フードバンクネットワーク活動報告
・NPO法人フードバンクイコロさっぽろ
・フードバンク富良野
・フードバンクくしろ
- 2) 講演
一般社団法人 全国フードバンク推進協議会 代表理事 米山廣明氏
- 3) 休憩&とっておきの道産食品(名刺交換)
- 4) 企業の実例紹介
・株式会社ローソン
・イオン北海道株式会社
・アンビシャスグループ北海道株式会社（札幌トヨペット株式会社）
- 5) 寄贈の税制優遇について 農林水産省北海道農政部
- 6) まとめ&アンケート

研修会で活動の底上げ

シンポジウム翌日には、ネットワーク加盟団体の集合研修が行われ、オンライン含め12人が参加した。

シンポジウムでも登壇した全国フードバンク推進協議会の米山代表が講師として、食品衛生管理の徹底などについて説明。「食品事故があると、自団体だけでなくネットワーク全体の信用を落とすことになる。研修を通じて衛生管理徹底の重要性が再認識された」と片岡代表。

研修会ではお互いの活動や課題も共有され、関係を深める機会にもなった。



▲グラフィックレコーディング

団体概要

所在地 福岡県古賀市
代表者名 理事長 堤 新吾
設立年 2019年
スタッフ数 2名
ボランティア 0名
(エフコープからの応援あり)
活動日数 週5日
<https://ffb-kyougikai.com/>

2022 年度活動実績

取扱量 福岡県下の各フードバンク団体で計上
食料提供者 約 200 社
食料提供先 福岡県下のフードバンク団体

活動内容

食料資源の流通を変更することにより、可能な限り資源利用の偏りが是正される公平な社会、互いに助け合い、一人ひとりが安心して暮らすことができる共助社会を目指している。

企業開拓や窓口の一本化へ フードバンク協議会を発足

一般社団法人福岡県フードバンク協議会



地域や団体の課題

フードバンク団体を支援する仕組み

福岡県がフードバンクを使った食品ロス削減をテーマに研究会をつくり、エフコープ（福岡県内約55万人が加入する九州最大の生協）もメンバーに入った。その中で、活動継続には収益面で心配があることや、企業等がどの団体に問い合わせればいいか困っていることも分かった。県内のフードバンク団体を支援する仕組みが必要と、協同組合（生協・農協）で運営する協議会が2019年4月に発足した。



▲食品提供の様子

団体のここがポイント！

企業の負担軽減

窓口を協議会に一本化し、企業がどの団体に連絡するか迷わなくなった。協議会が各フードバンク団体への食品数の調整等の連絡を行うため、企業側の負担が減った。

新規事業の開拓

これまで、99社の新規企業開拓を行い食品寄贈量が増加。併せて、企業の機関誌に食品ロスの記事を載せてもらう等の工夫を行っている。

信用性の担保

協議会に食品の寄贈をすることで、現場で適切に使われるという安心感がある。お金の寄付については、どの団体にどのくらいで分配するかを企業と話し合い決定している。またエフコープの倉庫で食品の保管をしているため、企業も安心して提供できる。

担当者に聞いてみた

一般財団法人
福岡県フードバンク協議会
事務局長
向居 秀文さん



Q.福岡県外の地域でも協議会のような仕組みや、中間的な組織はできると思いますか

できると思う。そのためには、県や市町村、行政のバックアップは必要不可欠。もともと協同組合は助け合いの精神があるため、こうした社会の課題解決に向けた組織運営は向いている面があるのかもしれない。社会情勢には左右されるが、今後は一般企業が社会貢献の一環として、より一層フードバンク活動に参画できるような仕組みが必要だと思う。

Q.今後の展開について

福岡県内のフードバンク団体の基盤強化を図りたい。持続可能な活動ができるように引き続き支援していきたい。

県内フードバンクの旗振役 適正管理と分配で基盤強化

新潟県フードバンク連絡協議会



団体概要

所在地 新潟県三条市
代表者名 会長 山下 浩子
設立年 2020年
スタッフ数 20 名
ボランティア 約2000名
活動日数 週7日
<https://niigata-fblc.org/>

2022 年度活動実績

取扱量 400 トン
(うち他フードバンクから 20 トン)
食料提供者 企業 約 1000 社
個人約 1400 人
食料提供先 約 300 団体
約 6500 世帯

活動内容

新潟県内25団体での協働体制で、大量の食品提供を実現。2023年度は約1,000tの取り扱いを行った。配布先は、全県の専門機関や企業・団体等、支援情報提供のハブ機能を担う。

地域や団体の課題

生活困窮者世帯の増加

新型コロナや物価高騰の影響等で、生活困難家庭が急増。特にひとり親家庭の状況が深刻化。全県16,000人の児童扶養手当受給者へ食支援の利用案内をしている。

団体間の合意形成と運営支援

新設団体増加に伴い、規模・運営方法が異なる団体間の緊密な連携の継続に注力。各団体ともに活動資金や寄贈食品の確保に課題を抱え、リアルタイムの支援ニーズが高まっている。



▲適正管理のもと保管されている古米

団体のここがポイント！

適正分配、適正消費

中間支援組織が協議会事務局を担い、加盟団体が抱える世帯数や提供先を把握。大口、小口のような食品寄贈依頼を一括して受ける確に分配している。最終受益者の食品の平均消費時期は約2ヶ月とし、無理なく消費できる適正分配を意識している。

運営基盤の底上げ

加盟団体の拠点には、補助金や助成金を利用し、業務用冷蔵庫・冷凍庫を設置。加盟団体毎に業務用保冷箱を配置したり、大量寄贈の場合は、連携する企業の倉庫に一時的な保管を依頼したり、運搬車両18台を協議会が一括レンタルし必要な団体が利用したりするなど、ハブ的な役割を担うことで安心安全に大量の食品取り扱いに寄与している。

担当者に聞いてみた

新潟県フードバンク連絡協議会
事務局長 小林 淳さん



Q.県ならではの工夫は？

米どころの新潟でもあり、団体によっては新米収穫の時期に古米の大量寄贈がある。米は、適切な温度での保管条件が必要なため、基本は玄米での提供を受け、協議会保有の米専用の冷蔵設備で保管する。その後、寄付された精米機により、精米したものを加盟団体がそれぞれの必要数に応じて分配をする。

Q.ネットワークだからできることは？

食品寄贈の際は、協議会が一括して合意書を結ぶことで、企業側と加盟団体の双方の負担を減らしている。加盟団体内では、食品の取り扱いや適正分配についての知見を共有し、食品衛生管理講習を定期的に行っている。また協議会加盟の際は「フードバンク活動における食品の取扱い等に関する手引き」の遵守を条件としている。

専門家派遣実績
8回 8時間

団体概要

所在地 兵庫県神戸市
代表者名 理事長
小野田 悦子
設立年 2020年
スタッフ数 0名
ボランティア 10名
活動日数 週5日
https://kobeksnw.com/

2022 年度活動実績

取扱量 24 トン
食料提供者 12 社
食料提供 約 20 団体
約 500 世帯

活動内容

神戸市内のこども食堂等に対して、食材や運営、衛生管理、広報等に関するサポート事業を行う。食事提供支援や学習支援、企画等を通してこどもたちの豊かな生活と地域社会づくりに寄与することを目的とする。

団体が直面していた課題

事務処理を効率化したい

在庫管理や報告業務等の事務処理に時間が取られ、支援時間が奪われることがある。事務処理を効率化するツールを活用して、支援時間を確保したい。

在庫管理方法に課題

在庫管理にエクセルを使用しているが、管理が大変で入力時間もかかるため簡略化したい。また、現在の方法では取扱量が算出されないため別の管理が必要で、入力作業が二度手間になっている。



▲無償提供いただいた看板

在庫管理ツールの作成 低コストで高い汎用性

フードバンク神戸

(特定非営利活動法人神戸こども食堂ネットワーク)



専門家から見たポイント



派遣された専門家
徳長 千善 氏
飛鳥電子株式会社

情報をまとめ簡略化

使いやすさとコストを重視し、エクセルのままで新たな在庫管理シートを作成。必要な情報を一つのシートで管理できるようにした。パソコンに不慣れなスタッフでも抵抗のないようにできる限り簡略化し、活用するハードルを下げることに留意した。また、多少の知識があれば団体自身でのカスタマイズも可能になっている。例えば、複数の倉庫へ分けて食品を保管する場合は、機能を追加することで各倉庫の在庫確認もできる。
※次頁で在庫管理シートを紹介

事務受託者派遣を活用

今回は専門家が事務受託者を兼ねて対応したことで、システムの設計だけでなく実際に現場で活用するところまで行うことができた。

どんな変化が起きた？

報告業務の効率化に成功

日々の入出庫を入力すれば取扱量が一覧化されるため、行政への報告書にも利用可能。作業時間が大幅に削減され、報告書作成はボランティアへ依頼することも可能になった。

取扱量増加にも対応

賞味期限や倉庫の管理も正確に行えるので、今後の取扱量の増加にも柔軟に対応できる。

団体担当者より

取扱量が増える状況で、以前の管理方法では事務負担の大きさが課題でした。専門家派遣による丁寧なヒアリングで課題が明確になり、寄付情報を一元化することでシンプルな入出庫管理が可能になりました。事務処理の軽減と管理体制の強化につながり、大変助かっています。

理事長
小野田 悦子さん



フードバンク神戸 在庫管理シート

①エクセルの「在庫管理表」シートに提供企業/食品種類・数等を入力

入出庫番号	入出庫日	入出庫時間	企業名	品名	管理品名	賞味期限	数量	入庫数	入出庫数	在庫数	在庫日	在庫日
1	2024/3/1	2024/3/1	株式会社〇〇	アレルト食品	1 レトルトカレー	2025/12/31	1,000.0	10.0	10	10,000.0	1 A倉庫	
2	2024/3/2	2024/3/2	株式会社〇〇	お菓子(常温)	7 タッキー	2024/9/30	100.0	10.0	10	1,000.0	2 B倉庫	
3	2024/4/1	2024/4/1	株式会社〇〇	アレルト食品	1 レトルトカレー	2025/12/31	1,000.0	10.0	4	4,000.0	1 A倉庫	
4	2024/4/2	2024/4/2	株式会社〇〇	アレルト食品	1 レトルトカレー	2025/12/31	1,000.0	10.0	3	3,000.0	1 A倉庫	

②提供企業ごとの食品提供状況一覧

合計 / 重量	列ラベル	<2023/4/11	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
行ラベル												
(株)神戸製鋼所										934		934
⑥レトルト食品										10		10
尾西カレー										10		10
⑩飲料										924		924
保存水										924		924
FMG&MISSION(株)								20				20
⑤消耗品								20				20
化粧品								20				20
HEINZ(株)										120		120
④食料品(冷凍)										120		120
フレンチフライドポテト(冷凍)										120		120
NPO法人徳島こども食堂ネットワーク										140		140
⑦インスタント食品										90		90
カップ麺										70		70
味噌汁										20		20
⑧お菓子(常温)										50		50
お菓子										50		50
NTT										3,780		3,780
⑩飲料										3,780		3,780

③食品ごとの提供状況一覧

企業名	(すべて)											
合計 / 重量	列ラベル	<2023/4/11	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
行ラベル												
①米		14					70		10,000			10,084
②野菜		52	50	96		30						228
③食料品(常温)				311					75			386
④食料品(冷凍)		3,270			1,689	120	120	120	120			5,439
⑤缶詰・瓶詰		7							324			331
⑥レトルト食品					225	96			10			331
⑦インスタント食品		155	20					1,230	132			1,537
⑧お菓子(常温)		50		3				3	3	52	157	267
⑨お菓子(冷凍)							660					660
⑩飲料			11	756	900			2,810		3,714	4,980	13,171
⑪日用品										250		250
⑫消耗品								9,030				9,030
⑬空白		0										0
総計		0	3,549	81	1,166	2,814	976	11,963	11,427	4,602	5,137	41,714

団体概要

所在地 宮城県仙台市
代表者名 代表理事 末永 博
設立年 2020年
スタッフ数 4名
活動日数 週5日
<https://tohoku-fb.net/>

2022 年度活動実績

取扱量 14.7 トン
食料提供者 企業 13 社
(及び加盟 11 団体)
食料提供先 加盟 11 団体
(通じて支援機関や施設等へ配布)

活動内容

東北6県で活動するフードバンク団体の運営サポートとともに、企業と団体とのコーディネートを行っている。東北では宮城県仙台市に企業が集中しているため、県を越えて連携し地域全体での支援に取り組んでいる。

企業・団体の双方にプラス運営マニュアルの作成へ

一般社団法人 東北フードバンク連携センター



地域や団体の課題

共通ルールの必要性

東北で活動する団体の特徴として、東日本大震災をきっかけに、必要に迫られて活動を開始している場合が多い。そのため、食品の管理体制やルールの整備が二の次になっている場合もある。

企業と団体双方にメリットとなる基準を

フードバンク運営の基準となる衛生管理等のマニュアルは、他組織が作成したものがいくつか存在するが、基準が厳しすぎるものも。企業が安心して食品を寄贈でき、また団体の活動指標になる新しいマニュアルづくりが必要。



▲倉庫視察の様子

団体のここがポイント！

フードバンク団体のマニュアル作成

企業が安心して食品を寄贈できるよう、食品の衛生管理や在庫管理方法などを記した、フードバンク団体のマニュアルを作成することに。団体担当者は約10年の活動実績があり、企業が気にするポイントや、どの程度基準をクリアしていれば安心できるかのラインを理解している。

マニュアルは現在活動している団体だけでなく、これから開始する団体にとっても、どういうポイントをクリアするべきかという指標になる。

食品の安全性等を証明

マニュアルができることで、食品の安全性や支援先の適切性が証明され、企業は安心して寄付ができる。また、一定の基準をクリアすることは、食品事故の防止など団体自身を守ることにもつながる。

担当者に聞いてみた

東北フードバンク連携センター
事務局長 阿部 知幸さん



Q.マニュアルのチェック項目はどのようになりそうですか？

倉庫での管理状況・輸送方法・チェックの仕方・支援先の選定方法などを考えています。

Q.マニュアルが完成することで、どんな変化を想定していますか？

企業としては一つの窓口として連携センターに寄付をすれば、基準をクリアした他地域の加盟団体にも安心して食品を渡すことができます。これにより、地域間の食品の偏りを埋めることができると考えています。

Q.作成にあたり気を付けていることはありますか

あまり項目が細かすぎると、クリアできず挫折したり、時間がかかりすぎたりしてしまうことも考えられます。企業の信頼を得ながら、団体の質を担保できるような落としどころを探っていきたい。

イベントレポート

一般社団法人東北フードバンク連携センター

開催概要

フードバンク活動促進に向けた情報交換会
～効果的で持続的なフードバンク活動を続けるためにフードバンク団体に必要なフードバンクネットワークとは？～

主催：東北農政局／一般社団法人東北フードバンク連携センター

日時 2023年11月27日
14:00～16:00

場所 宮城県仙台市
仙台合同庁舎

対象 食品関連事業者
フードバンク活動団体
地方公共団体等

参考 P.36（一般社団法人東北フードバンク連携センターの紹介）

行政・企業・団体の事例共有地域の連携を強化



情報交換会 内容

- 1) 情報提供
フードバンク活動に関する支援等について
農林水産省大臣官房新事業・食品産業部外食・食文化課 浅浦課長補佐
- 2) フードバンク活動に取り組む事業者からの取組事例紹介
仙台農業協同組合青年部 佐藤委員長
- 3) フードバンク活動団体による活動報告
①認定特定NPO法人フードバンク岩手 阿部副理事長兼事務局長
②一般社団法人東北フードバンク連携センター 末永代表理事
- 4) 意見交換
・フードバンクの現場のニーズについて
・食品提供者における食品ロス削減に資する食品・食材の提供事情等について
- 5) その他

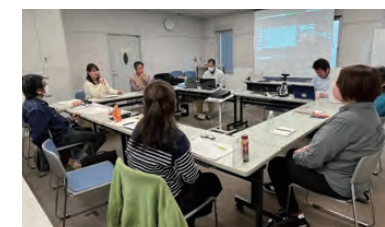
フードバンク団体の集合研修も

情報交換会開催後、東北フードバンク連携センターに加盟する団体の研修が実施された。

日々の活動や課題を共有し、また、加盟団体の衛生管理基準を設けるための意見交換も。食品のやり取りや管理に際する衛生管理を徹底することで、企業からの信頼を得ることや団体の底上げを目指している。



▲情報交換会の様子



▲フードバンク団体の集合研修